

TOKACHI
十勝の

景気動向

◇ 全業種	1P
◇ 製造業	3P
◇ 卸売業	5P
◇ 小売業	7P
◇ 建設業	9P
◇ 不動産業	11P
◇ サービス業	13P
◇ 運輸業	15P

調査要領 調査数 415 社 調査時点：平成21年11月24日～平成21年11月30日
回答数 402 社 調査地域：当金庫本支店所在地
回答率 96.9 % 調査方法：当金庫本支店職員による面接聞き取り法
分析方法：判断D.I.を中心に分析

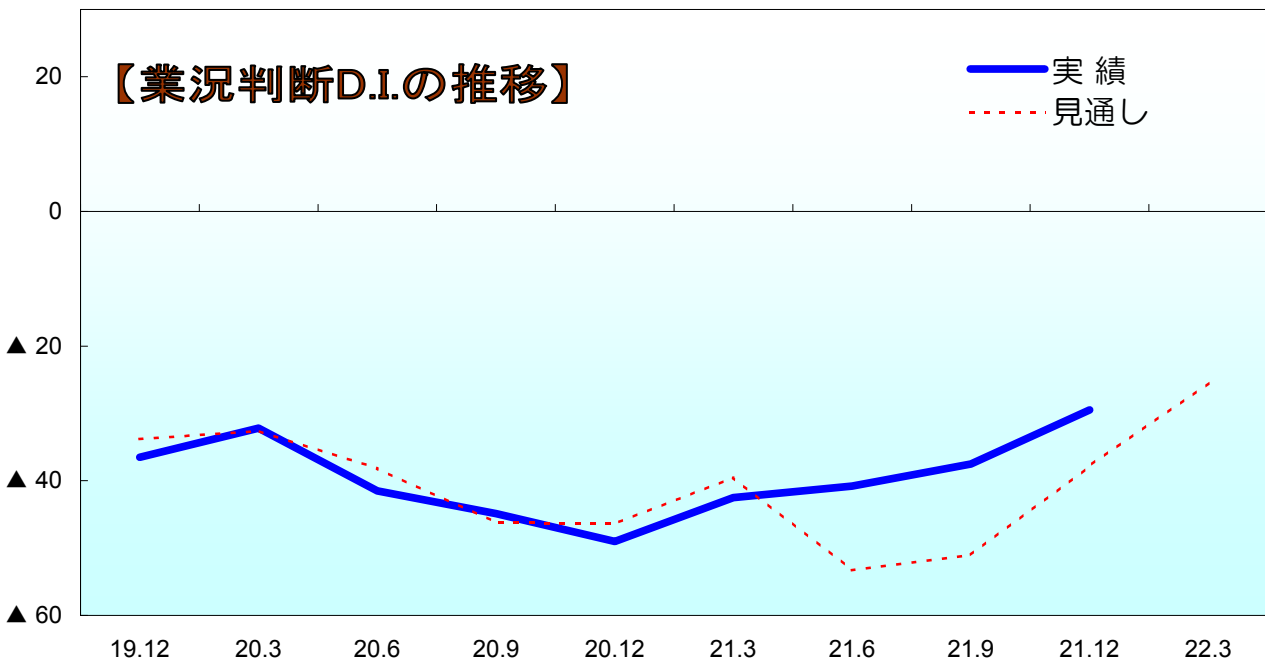
全業種

【今 期】

今期（10～12月期）の「業況判断」（D.I.以下同じ）は、前期比横ばいを見込んでいた前回見通し（▲38）から8ポイント上振れ、▲30の「悪い超」となった。この結果、平成20年10～12月期（▲49）をボトムに4期連続の改善となり、この間の累計（前年同期比に相当）では19ポイントの「悪い超」幅縮小となった。業種別に前期実績と対比してみると、貨物輸送を中心に大幅悪化をみた運輸業を除き、すべての業種で改善した。

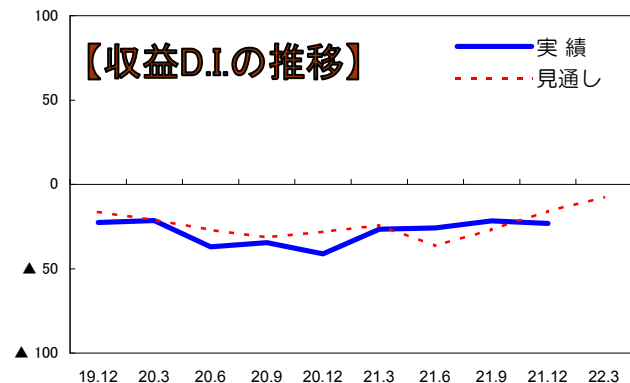
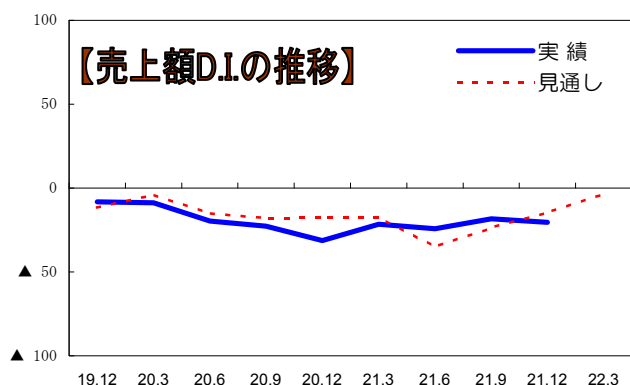
【来 期】

来期（1～3月期）の「業況判断」見通しは▲26の「悪い超」と、4期振りに前期実績を上回り、年度内に限ってみれば、先行きへの慎重な見方がやや薄らいでいるように見受けられる。この間、「売上額」、「収益」の増加を見通す先も増え、「減収・減益」超幅が縮小している。もっとも、設備投資実施企業数をみると、ここ3期は前年同期を大きく上回る高水準を持続していたが、来期については、現在設備に不足感が残存するにもかかわらず、実施を計画している企業数が前期比半減し、前年同期も下回るといった慎重姿勢が目立っている。



- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 販売・料金価格、仕入・材料価格
⇒「上昇」-「下降」
- 在庫、人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 10～12月	21年 1～3月	4～6月	7～9月	前回調査 (見通し)	10～12月 (実績)	1～3月 (見通し)
業況	▲49	▲43	▲41	▲38	▲38	▲30	▲26
売上額	▲31	▲22	▲24	▲18	▲15	▲20	▲3
収益	▲41	▲27	▲26	▲22	▲16	▲23	▲8
販売・料金価格	▲5	▲17	▲18	▲6	▲9	▲14	▲10
仕入・材料価格	26	▲2	3	8	5	▲3	2
在庫	0	5	0	4	0	3	0
資金繰り	▲24	▲24	▲20	▲22	▲24	▲19	▲17
残業時間	▲16	▲5	▲12	▲6	▲7	▲6	▲2
人手	0	▲8	▲3	▲8	▲6	▲10	▲11
現在設備	▲7	▲7	▲6	▲11	▲10	▲4	▲4



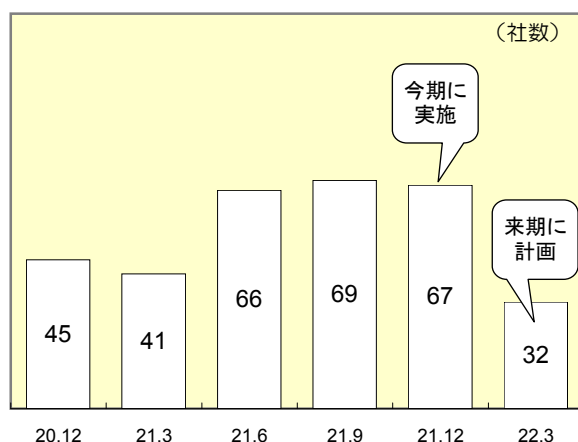
経営上の問題点

	社	比率	前期比(社)
売上の停滞・減少	261	64.9%	▲ 5
同業者間の競争の激化	163	40.5%	0
利幅の縮小	137	34%	▲ 8
大手企業との競争の激化	50	13.4%	▲ 2
販売納入先からの値下げ要請	21	7%	▲ 5
人件費の増加	23	5.7%	1
代金回収の悪化	10	2.4%	▲ 4
店舗の狭小・老朽化	22	7.3%	3
人件費以外の経費の増加	15	3.7%	0
人手不足	25	6.2%	▲ 1
合理化の不足	11	4.5%	2

当面の重点施策

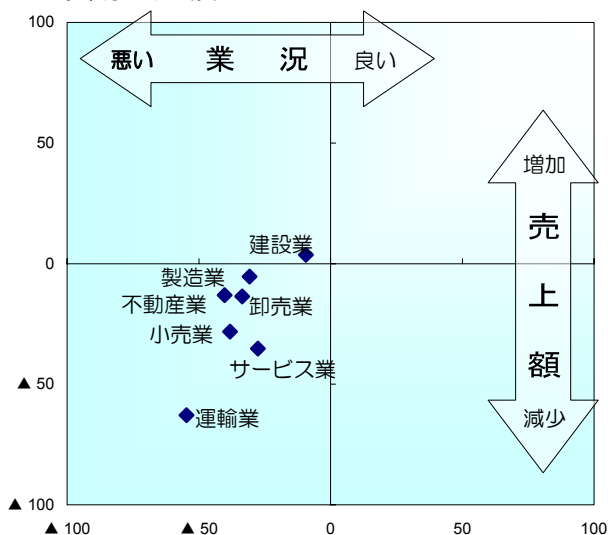
	社	比率	前期比(社)
経費を節減する	258	64.1%	▲ 17
販路を広げる	123	49.3%	▲ 11
情報力を強化する	62	36.2%	▲ 7
人材を確保する	47	11.6%	▲ 4
教育訓練を強化する	34	8.4%	▲ 10
新しい事業を始める	19	5.2%	1
パート化を図る	11	2.7%	3
提携先を見つける	16	10.4%	2
不動産の有効利用を図る	13	3.2%	3
特になし	19	5%	3
労働条件を改善する	8	3.2%	▲ 6
機械化を推進する	8	2.6%	▲ 1
その他	7	1.7%	3

設備投資

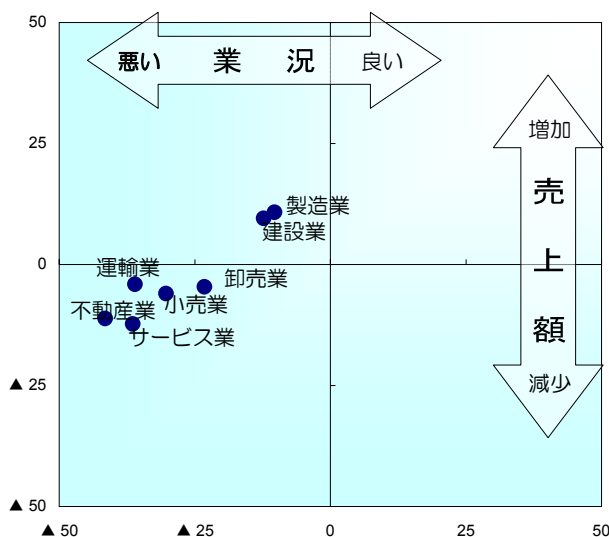


業種別の動き

今期の実績



来期の見通し



製造業

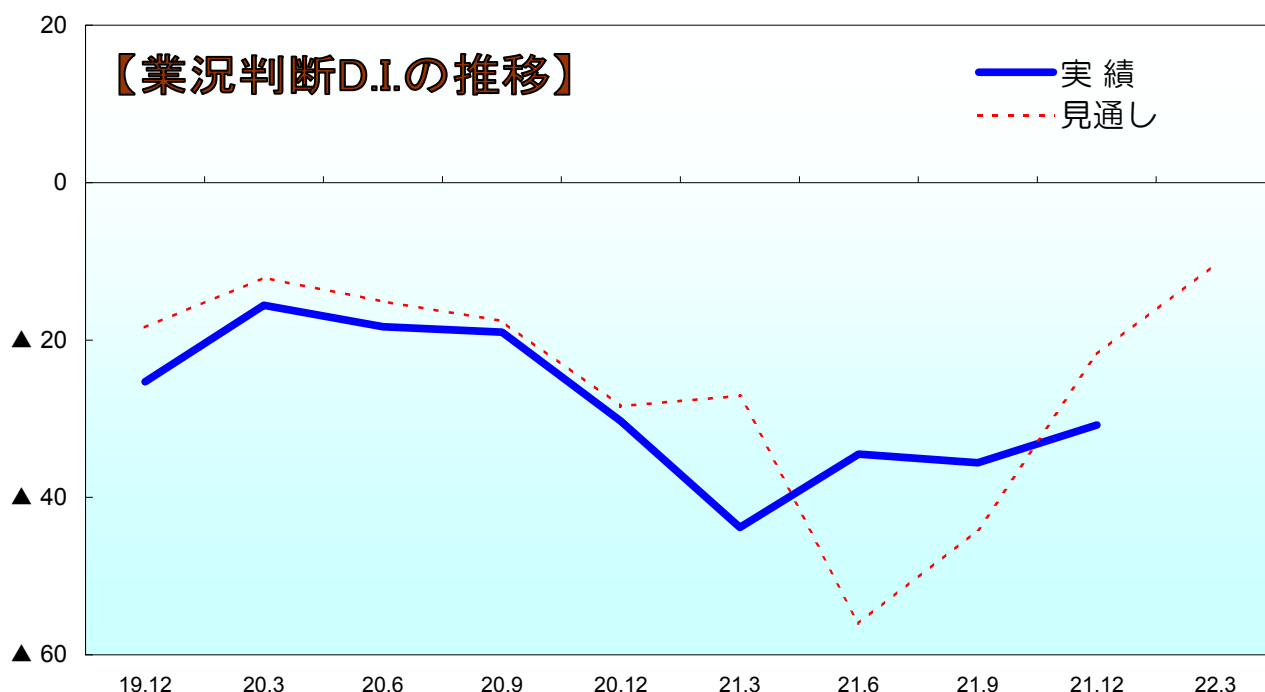
調査数 40 社
 回答数 39 社
 回答率 97.5 %

【今 期】

今期の「業況判断」は▲31の「悪い超」と、前回の大幅改善見通し（▲22）からは9ポイント下振れたものの、前期（▲36）に比べれば5ポイントの「悪い超」幅縮小となった。これは、食料品が3期振りに「悪い超」に転化したものの、木材・木製品、建築用金属製品、一般機械等が「悪い超」幅を縮小したことによるもの。

【来 期】

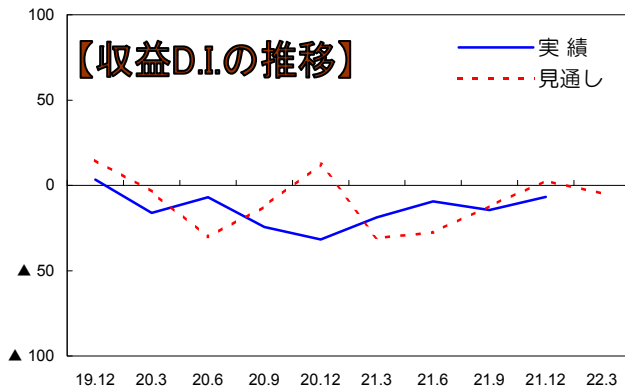
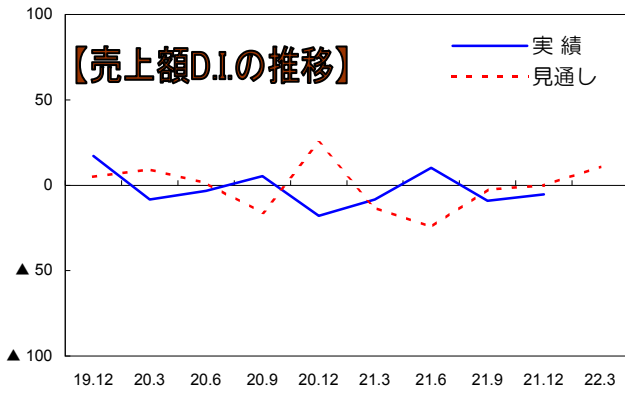
来期の「業況判断」は▲10と「悪い超」幅が急速に縮小する見通しとなっている。これは、食料品などにおいて、「売上額」の「增收超」への転化や「収益」の「減益超」幅の縮小などを見込む先が多いことによるもの。



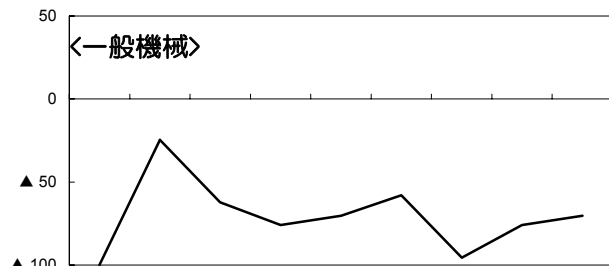
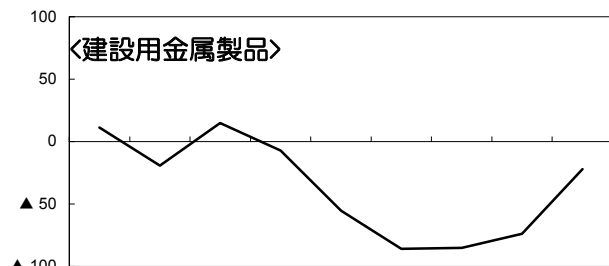
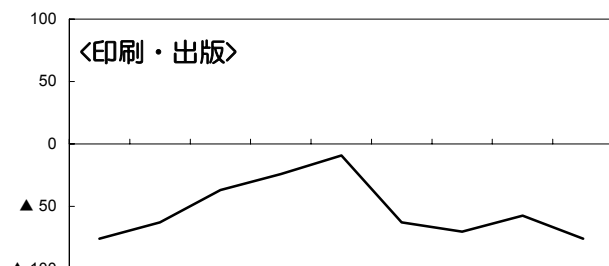
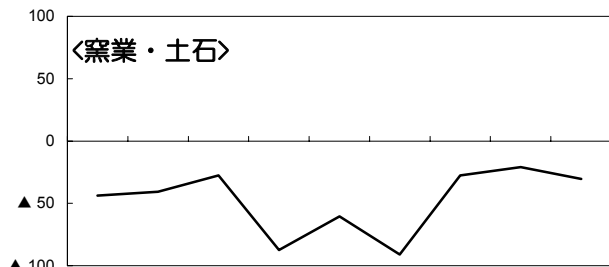
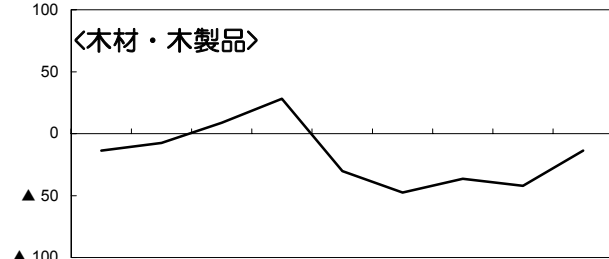
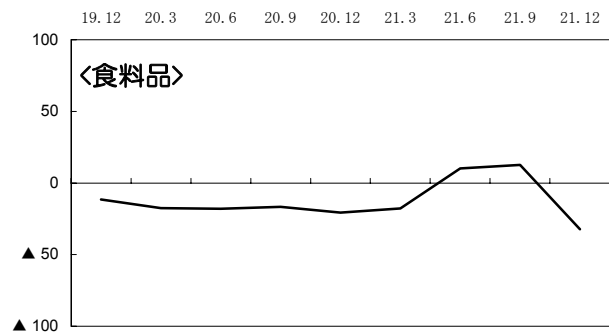
◆判断D.I.

- 業況
⇒「良い」-「悪い」
 - 売上額、受注残、収益、
残業時間
⇒「増加」-「減少」
 - 販売・原材料価格
⇒「上昇」-「下降」
 - 在庫、人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
 - 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 10~12月	21年 1~3月	4~6月	7~9月	前回調査 (見通し)	10~12月 (実績)	1~3月 (見通し)
業況	▲30	▲44	▲35	▲36	▲22	▲31	▲10
売上額	▲18	▲8	10	▲9	0	▲5	11
受注残	▲31	▲20	▲10	▲14	0	▲6	▲1
収益	▲32	▲19	▲9	▲14	3	▲7	▲5
販売価格	14	▲13	▲19	▲11	▲5	▲14	0
原材料価格	62	▲8	▲17	▲4	7	5	▲4
原材料在庫	6	23	34	16	3	▲2	▲8
資金繰り	▲2	▲3	▲8	▲16	▲18	▲5	0
残業時間	▲14	▲15	▲17	▲16	▲18	▲4	▲5
人手	0	▲11	9	▲3	▲4	▲15	0
現在設備	▲7	2	0	2	▲2	▲7	▲3



中分類別の業況D.I.の推移



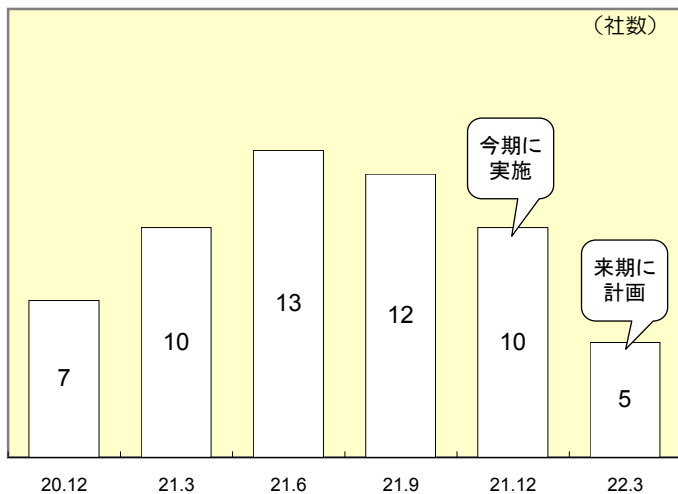
経営上の問題点

	社	比率
売上の停滞・減少	26	67%
同業者間の競争の激化	17	44%
利幅の縮小	13	33%

当面の重点施策

	社	比率
経費を節減する	27	69%
販路を広げる	21	54%
情報力を強化する	14	36%

設備投資



卸売業

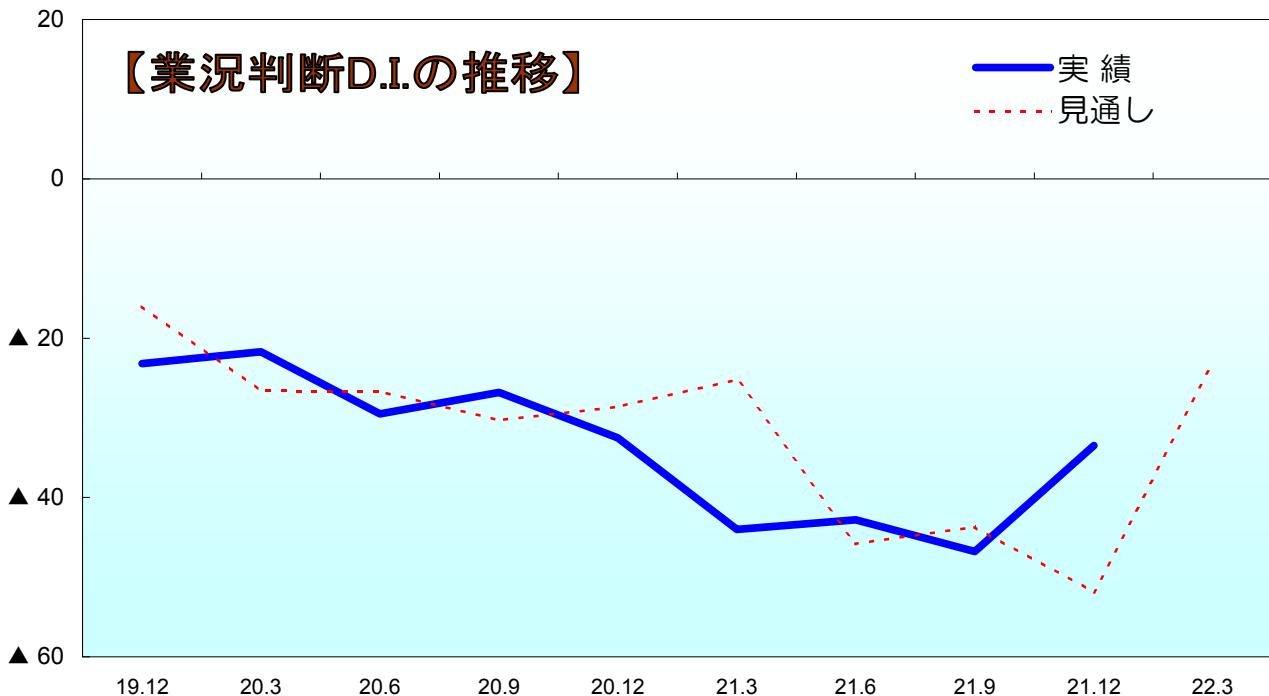
調査数 30 社
 回答数 29 社
 回答率 96.7 %

【今 期】

今期の「業況判断」は▲34の「悪い超」と、一段の悪化を見込んでいた前回見通し(▲52)に比べて18ポイントの大幅上振れとなり、前期(▲47)比でも一転して13ポイントの大幅な「悪い超」幅縮小となった。これは、これまで基調として「上昇超」となっていた仕入れ価格の「下降超」への転化などにより、「収益」が3年振りに「減益超」から「増益超」に転化したことなどによるものとみられる。

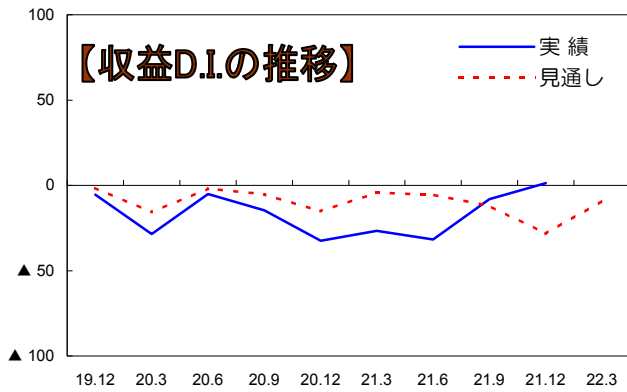
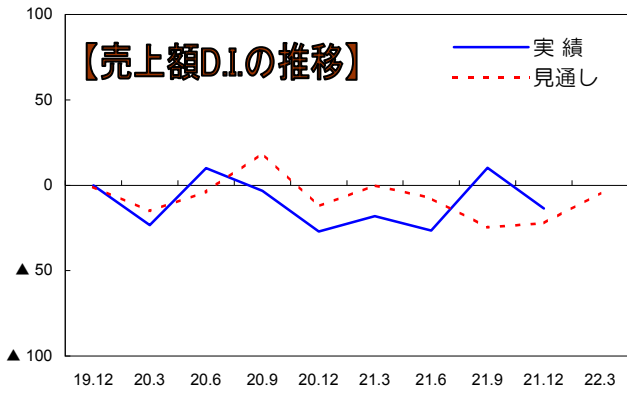
【来 期】

来期の「業況判断」は▲23と、「悪い超」幅が今期実績比11ポイント縮小する見通し。これは、「売上額」の「減収超」幅が縮小するほか、「収益」の「減益超」幅が比較的小幅なものにとどまることなどが背景にあるためとみられる。

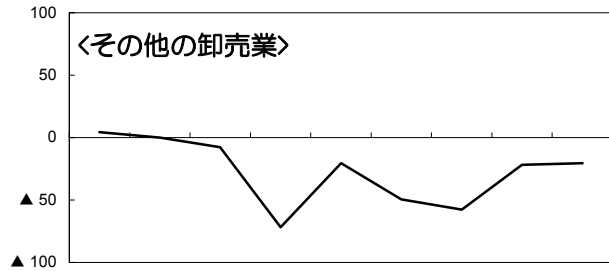
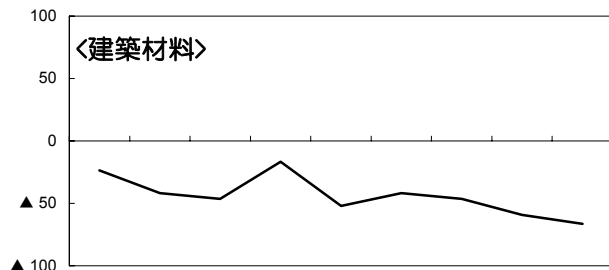
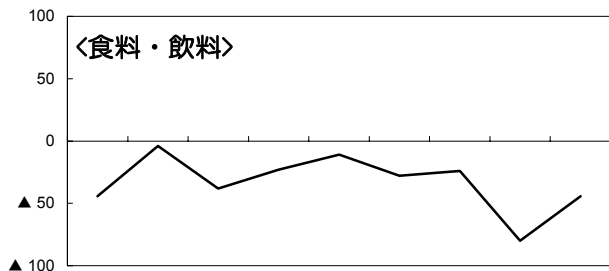
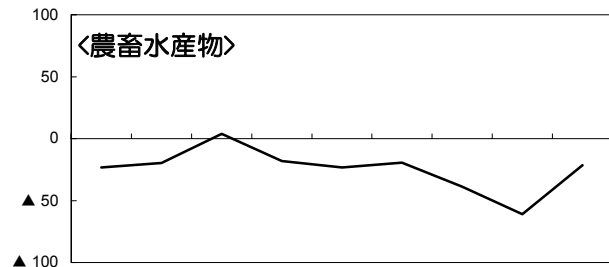
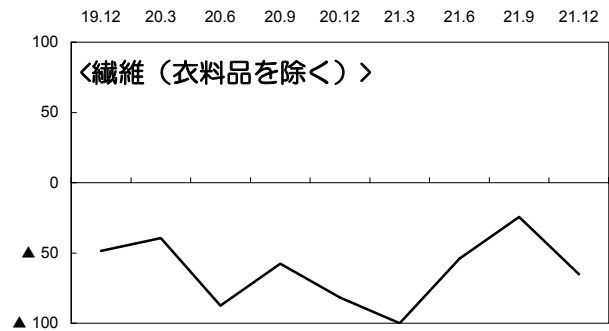


- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 販売・仕入価格
⇒「上昇」-「下降」
- 在庫、人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 10~12月	21年 1~3月	4~6月	7~9月	前回調査 (見通し)	10~12月 (実績)	1~3月 (見通し)
業況	▲33	▲44	▲43	▲47	▲52	▲34	▲23
売上額	▲27	▲18	▲27	10	▲22	▲14	▲5
収益	▲32	▲27	▲32	▲8	▲28	1	▲9
販売価格	16	▲3	▲9	3	▲6	▲1	0
仕入価格	16	▲2	2	11	0	▲5	4
在庫	12	11	5	7	▲7	12	4
資金繰り	▲3	▲2	▲8	0	▲11	▲3	▲2
残業時間	▲8	▲13	▲10	▲12	▲9	▲5	▲12
人手	10	5	1	4	7	▲7	0
現在設備	4	4	3	5	6	▲2	3



中分類別の業況D.I.の推移



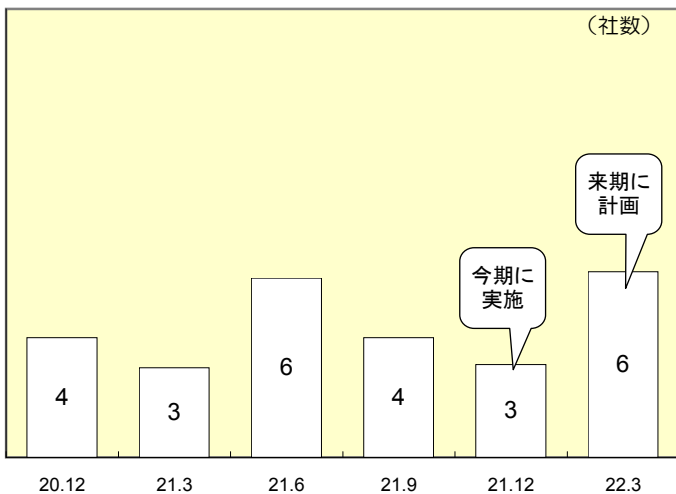
経営上の問題点

	社	比率
売上の停滞・減少	15	52%
同業者間の競争の激化	11	38%
利幅の縮小	6	21%
天候の不順	6	21%

当面の重点施策

	社	比率
販路を広げる	23	79%
経費を節減する	19	66%
情報力を強化する	13	45%

設備投資



小売業

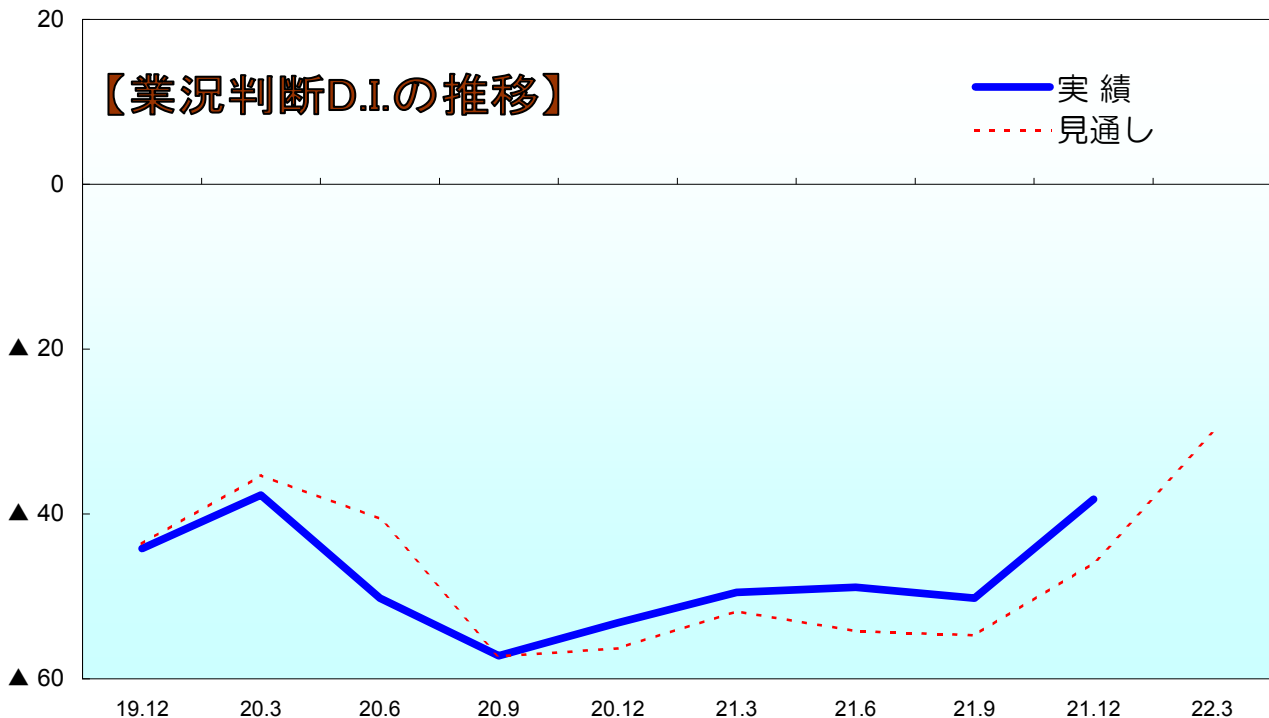
調査数 156 社
 回答数 153 社
 回答率 98.1 %

【今期】

今期の「業況判断」は▲38の「悪い超」と、前期（▲50）比小幅改善を見込んだ前回見通し（▲46）からさらに上振れ、前期比では12ポイント、前年同期比では15ポイントといずれも大幅な改善となった。これは、自動車のエコカー減税や買い替え補助金、省エネ家電のエコポイント制度の導入といった経済対策による押し上げ効果から、自動車・自転車が▲35の「悪い超」から+2の「良い超」に転化（中分類集計開始〈平成13年〉以降、初めて）したほか、家庭用電器も4期連続で「悪い超」幅を縮小したことなどを反映したものとみられる。

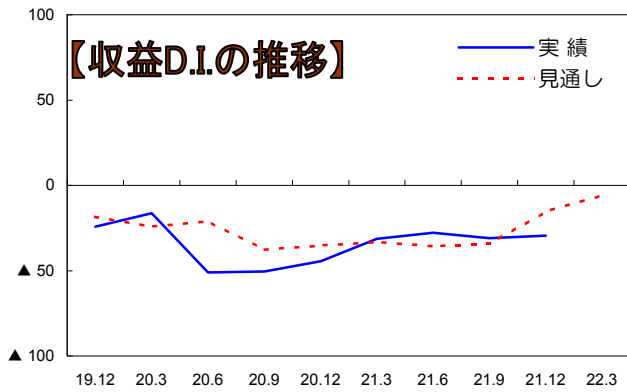
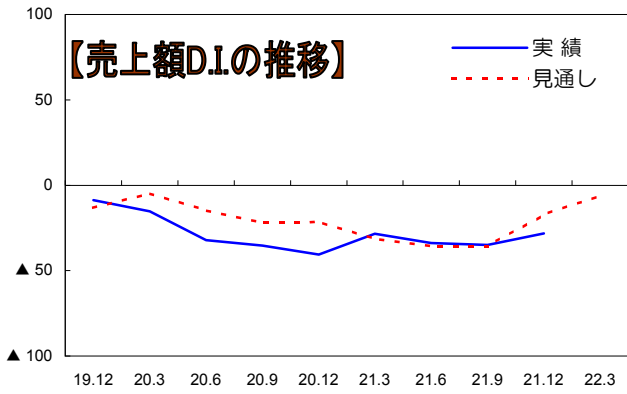
【来期】

来期の「業況判断」見通しは▲30と、「悪い超」幅が今期実績比さらに8ポイント縮小する見込みとなっている。これは、上記の経済対策効果もあって、「売上額」、「収益」がそれぞれ22ポイント、23ポイントの大幅な改善となり、ともに▲6の比較的小幅な「減収超」・「減益超」にとどまる見通しとなっているためとみられる。

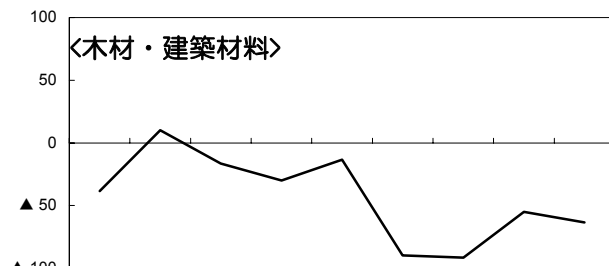
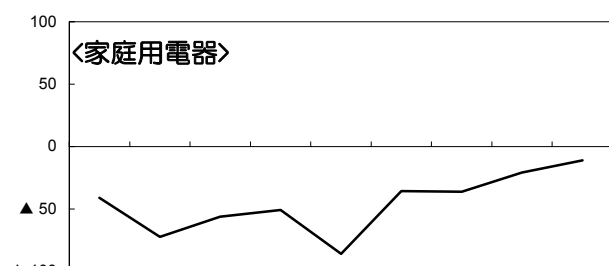
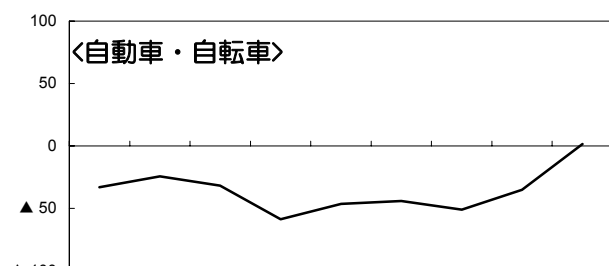
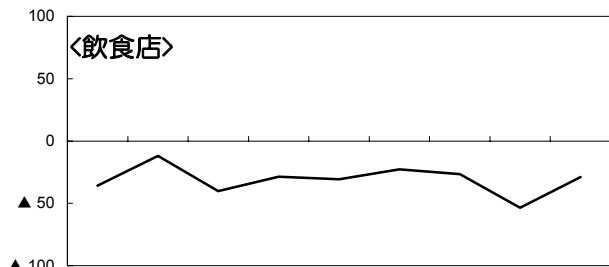
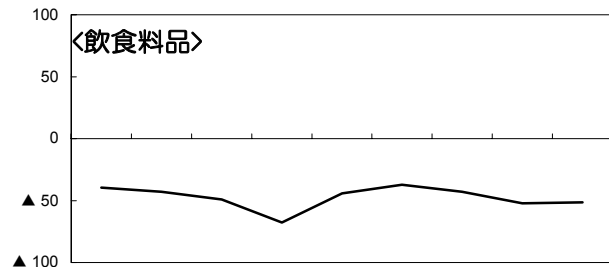
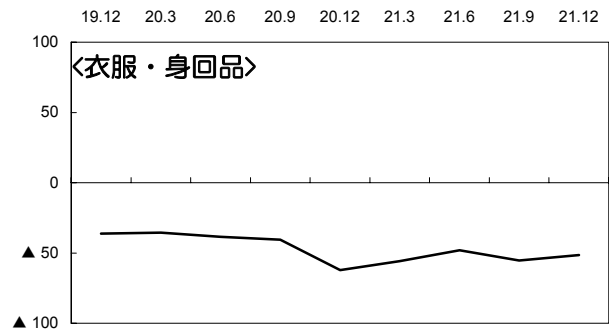


- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 販売・仕入価格
⇒「上昇」-「下降」
- 在庫、人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 10~12月	21年 1~3月	4~6月	7~9月	前回調査 (見通し)	10~12月 (実績)	1~3月 (見通し)
業況	▲53	▲50	▲49	▲50	▲46	▲38	▲30
売上額	▲41	▲28	▲34	▲35	▲17	▲28	▲6
収益	▲44	▲31	▲28	▲31	▲15	▲29	▲6
販売価格	2	▲16	▲16	▲2	▲9	▲18	▲12
仕入価格	13	▲5	1	6	▲2	▲9	▲4
在庫	▲2	0	▲2	8	5	5	3
資金繰り	▲28	▲28	▲26	▲32	▲29	▲27	▲23
残業時間	▲12	▲2	▲8	▲5	▲4	▲7	0
人手	▲1	▲13	▲7	▲6	▲5	▲9	▲13
現在設備	▲12	▲7	▲9	▲12	▲11	▲6	▲4



中分類別の業況D.I.の推移



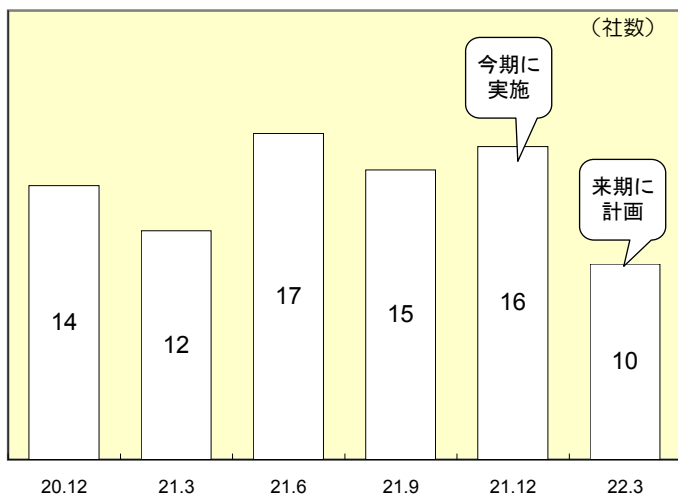
経営上の問題点

	社	比率
売上の停滞・減少	109	71%
同業者間の競争の激化	49	32%
利幅の縮小	40	26%

当面の重点施策

	社	比率
経費を節減する	96	63%
品揃えを改善する	70	46%
売れ筋商品を取り扱う	63	41%

設備投資



建設業

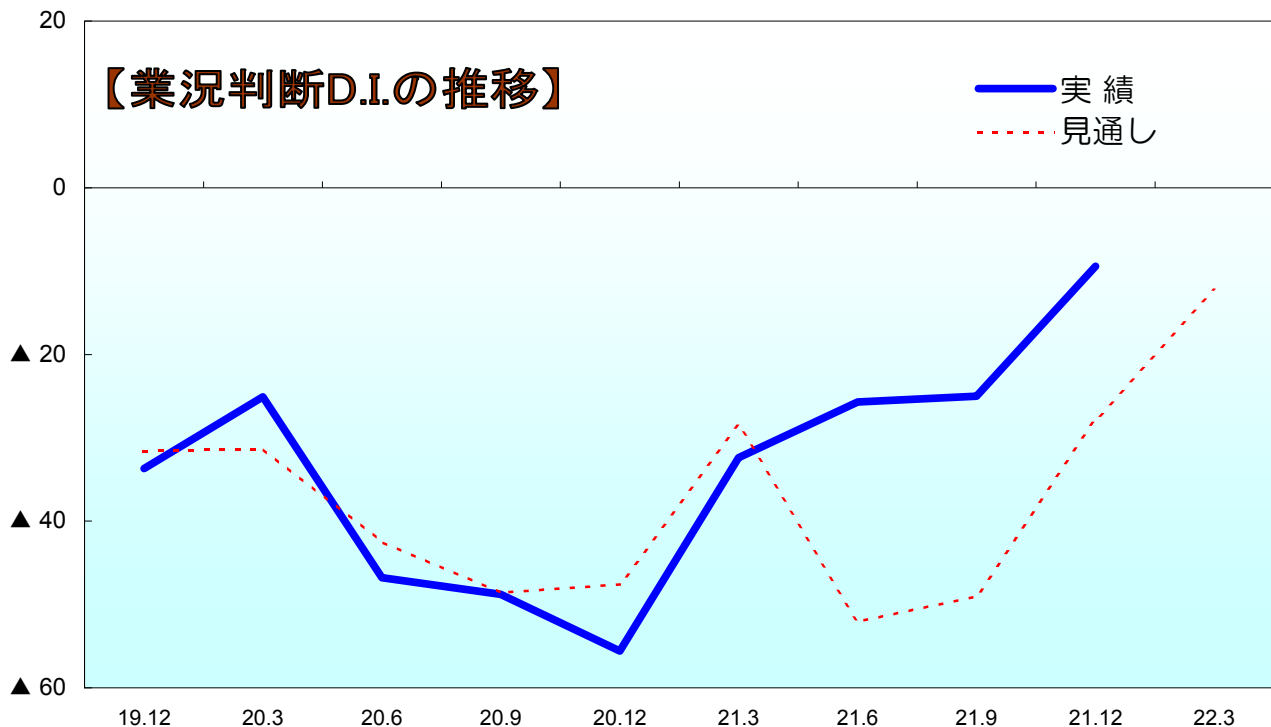
調査数 97 社
 回答数 96 社
 回答率 99.0 %

【今 期】

今期の「業況判断」は▲9の「悪い超」と、前期比小幅悪化を見込んだ前回見通し(▲28)から大幅に上振れ、前期(▲25)、前年同期(▲56)に比べて大きく改善した。因みに、ここまで「悪い超」幅が縮小したのは、平成16年7~9月期(▲10)以来5年振りのこと。これは、経済対策としての公共事業の発注増を背景に、受注残が「減少超」から「増加超」に転化したことなどによるものとみられる。

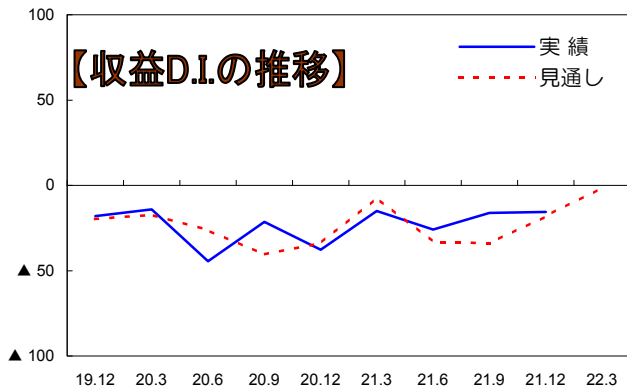
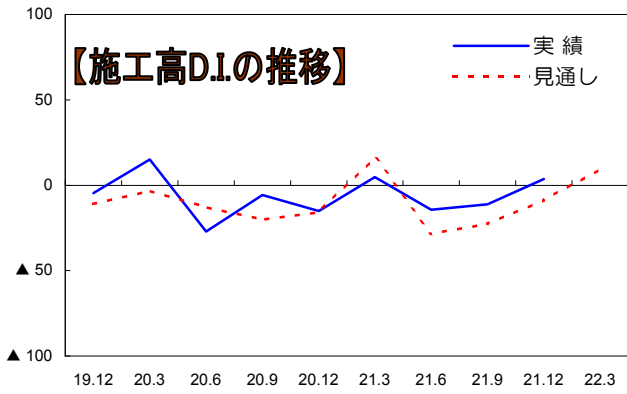
【来 期】

来期の「業況判断」見通しは▲12の「悪い超」と、今期実績比3ポイントの小幅の「悪い超」幅拡大となっている。もっとも、「施工高」は+10の「増加超」となり、「収益」も▲1の小幅「減益超」にとどまるなど、年度内に限ってみれば、一部経営指標は改善傾向を維持する見通しとなっている。



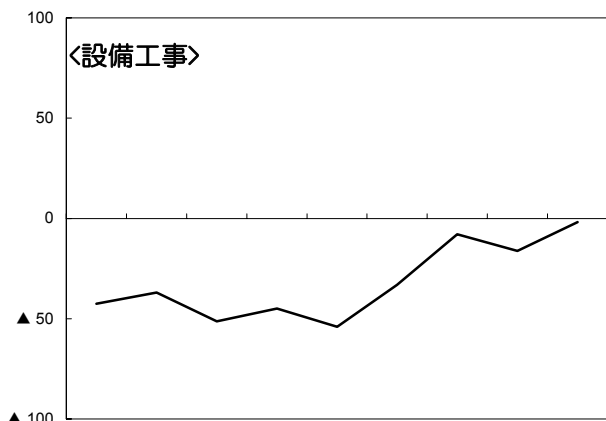
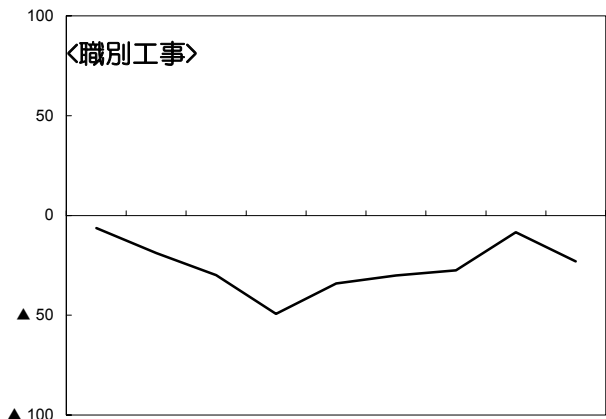
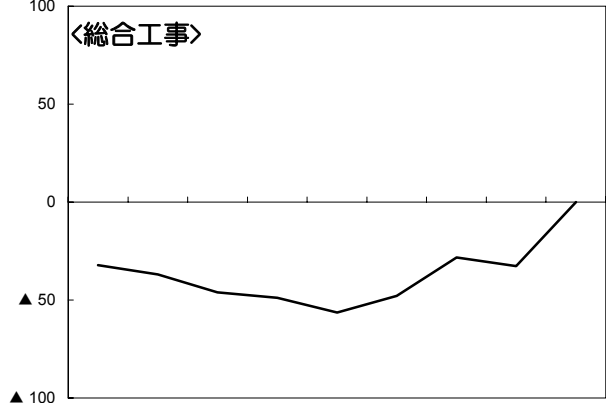
- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、受注残、施工高
収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 請負・材料価格
⇒「上昇」-「下降」
- 在庫、人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 10~12月	21年 1~3月	4~6月	7~9月	前回調査 (見通し)	10~12月 (実績)	1~3月 (見通し)
業況	▲ 56	▲ 32	▲ 26	▲ 25	▲ 28	▲ 9	▲ 12
売上額	▲ 21	0	▲ 14	▲ 7	▲ 5	0	6
受注残	▲ 19	▲ 16	▲ 20	▲ 14	0	7	▲ 2
施工高	▲ 15	5	▲ 14	▲ 11	▲ 9	4	10
収益	▲ 38	▲ 15	▲ 26	▲ 16	▲ 18	▲ 16	▲ 1
請負価格	▲ 29	▲ 28	▲ 26	▲ 12	▲ 10	▲ 8	▲ 12
材料価格	41	15	8	4	13	4	11
在庫	▲ 2	2	▲ 6	▲ 4	▲ 3	0	0
資金繰り	▲ 21	▲ 25	▲ 16	▲ 19	▲ 21	▲ 14	▲ 16
残業時間	▲ 28	0	▲ 15	▲ 2	▲ 10	▲ 5	6
人手	5	▲ 9	0	▲ 15	▲ 10	▲ 14	▲ 18
現在設備	0	▲ 5	▲ 3	▲ 8	▲ 5	▲ 3	▲ 4



中分類別の業況D.I.の推移

19.12 20.3 20.6 20.9 20.12 21.3 21.6 21.9 21.12



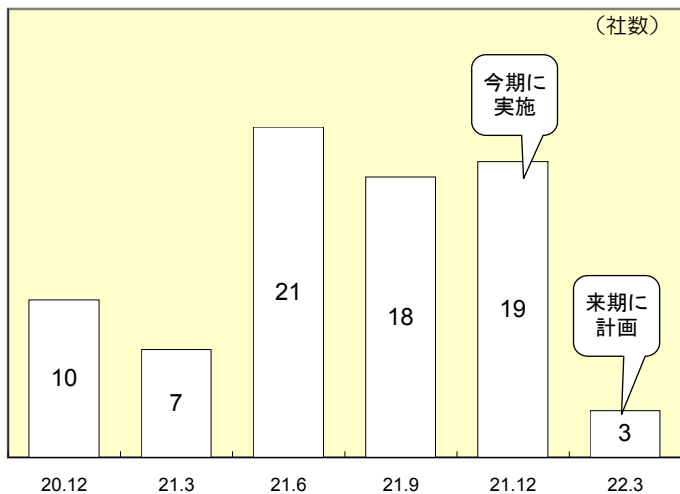
経営上の問題点

	社	比率
売上の停滞・減少	58	60%
利幅の縮小	53	55%
同業者間の競争の激化	52	54%

当面の重点施策

	社	比率
経費を節減する	66	69%
技術力を高める	40	42%
販路を広げる	38	40%

設備投資



不動産業

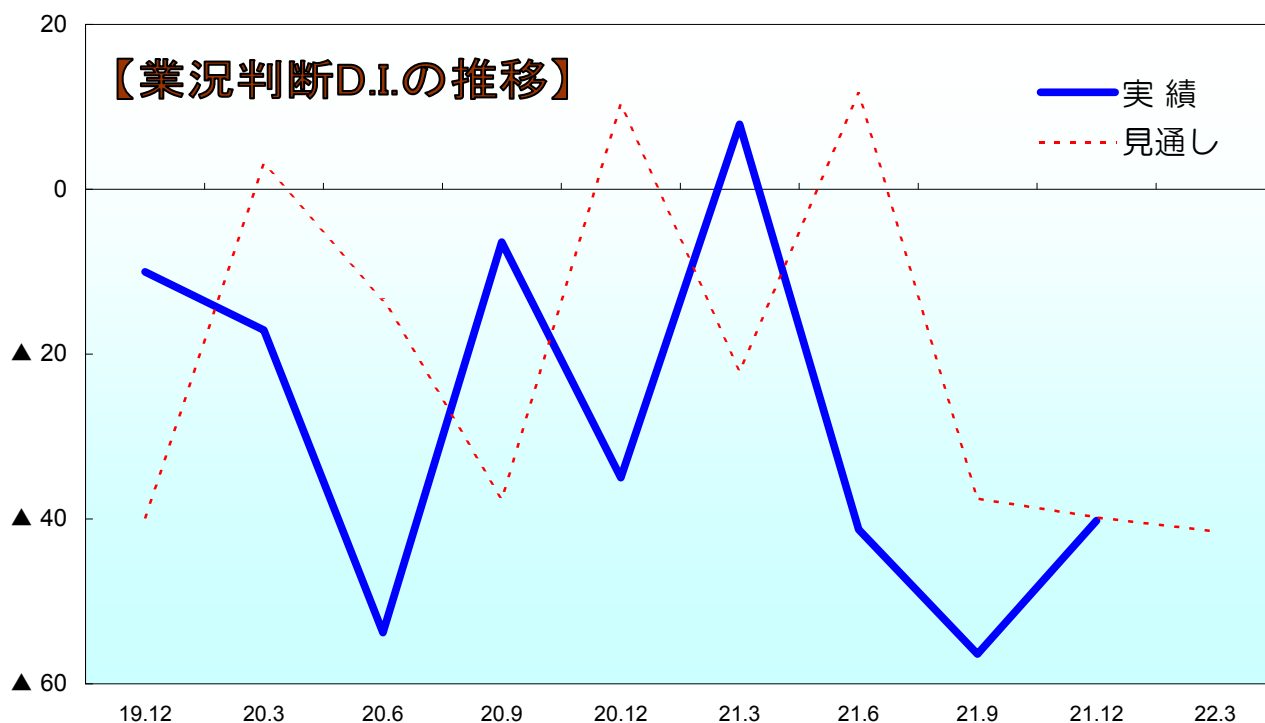
調査数 9社
 回答数 7社
 回答率 77.8%

【今期】

今期の「業況判断」は▲40の「悪い超」と、前回見通しどおり、前期比16ポイントの改善となった。これは、貸事務所・土地賃貸業が一段と悪化したものの、不動産代理・仲介業が改善したことによるもの。

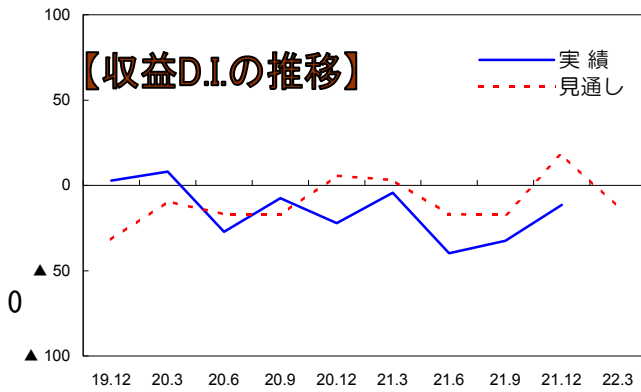
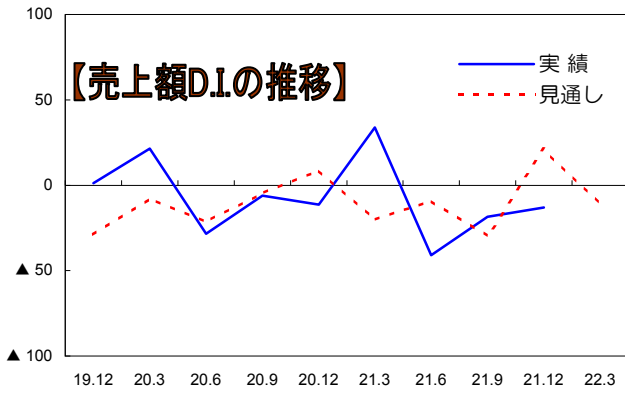
【来期】

来期の「業況判断」は▲42の「悪い超」と、概ね横ばいとなる見通し。この間、「売上額」、「収益」も、横ばい圏内での推移が見込まれている。

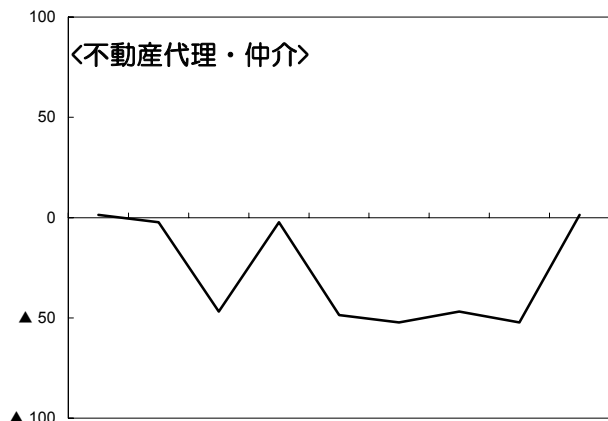
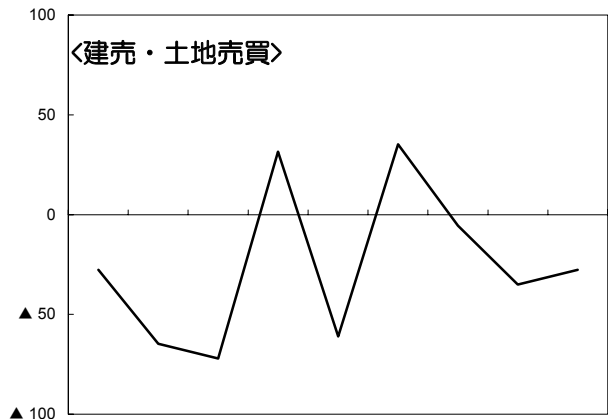
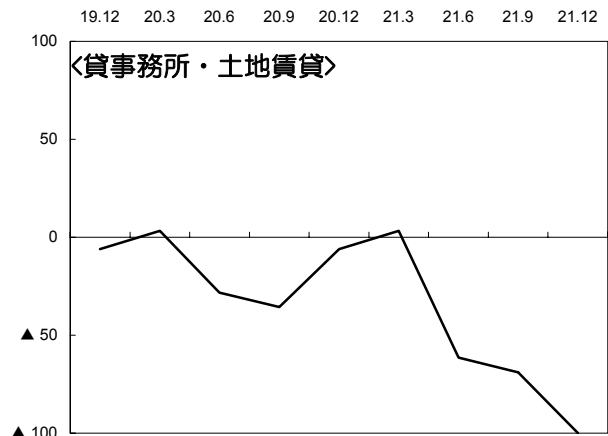


- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 販売・仕入価格
⇒「上昇」-「下降」
- 在庫、人手
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 10~12月	21年 1~3月	4~6月	7~9月	前回調査 (見通し)	10~12月 (実績)	1~3月 (見通し)
業況	▲ 35	8	▲ 41	▲ 56	▲ 40	▲ 40	▲ 42
売上額	▲ 11	34	▲ 41	▲ 19	21	▲ 13	▲ 11
収益	▲ 22	▲ 4	▲ 40	▲ 33	18	▲ 11	▲ 13
販売価格	▲ 33	▲ 13	▲ 42	▲ 25	▲ 32	▲ 24	▲ 18
仕入価格	3	▲ 34	▲ 8	1	▲ 12	▲ 11	6
在庫	▲ 2	7	▲ 21	▲ 22	▲ 23	12	1
資金繰り	0	20	9	▲ 5	▲ 30	15	3
残業時間	▲ 12	▲ 12	▲ 14	0	0	0	4
人手	0	▲ 7	▲ 8	▲ 11	▲ 12	▲ 13	▲ 16



中分類別の業況D.I.の推移



経営上の問題点

	社	比率
同業者間の競争の激化	5	71%
売上の停滞・減少	4	57%
利幅の縮小	3	43%

当面の重点施策

	社	比率
情報力を強化する	5	71%
経費を節減する	3	43%
販路を広げる	2	29%
宣伝・広告を強化する	2	29%

サービス業

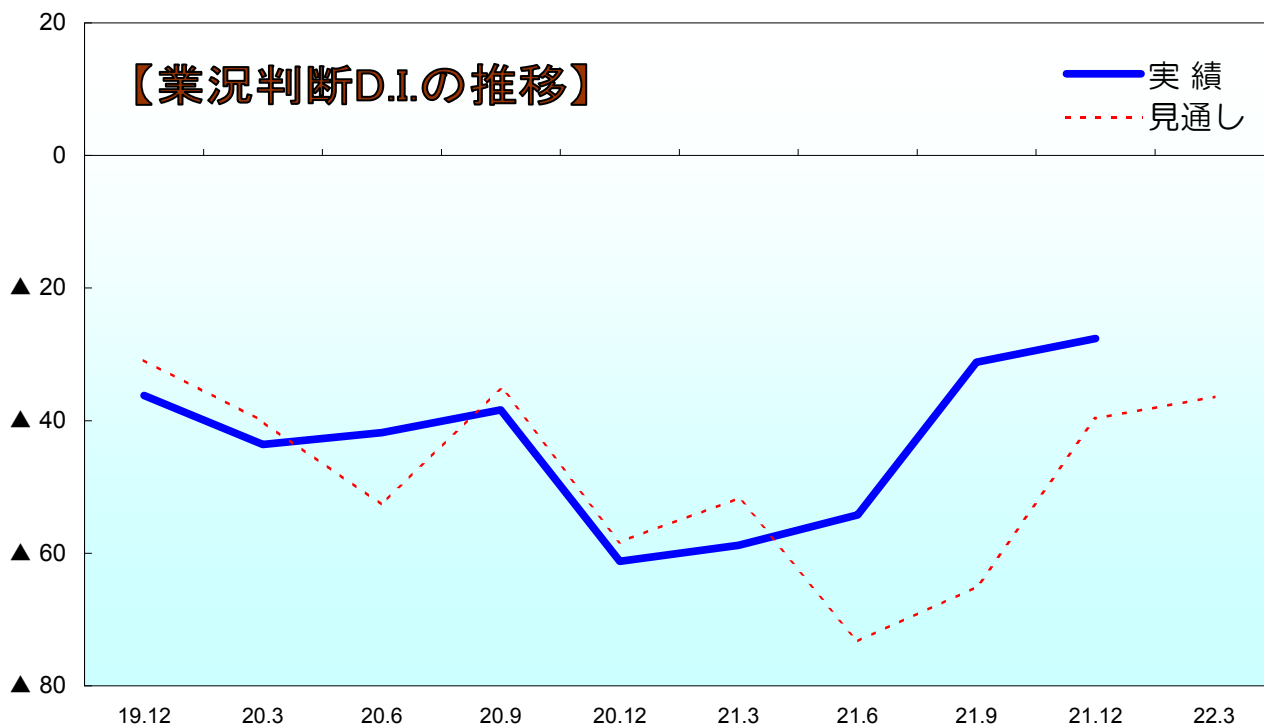
調査数 54 社
 回答数 50 社
 回答率 92.6 %

【今 期】

今期の「業況判断」は▲28の「悪い超」と、先行き悪化を見通していた前回調査(▲40)から大幅に上振れ、4期連続の改善となった。因みに、直近のボトムとなった平成20年10～12月期(▲61)に比べてみると、「悪い超」幅は半減となった。こうした改善傾向をもたらしたのものとしては、旅館・ホテル業において「悪い超」幅の縮小が続き、今期は「良い超」へと転化したことなどが挙げられる。

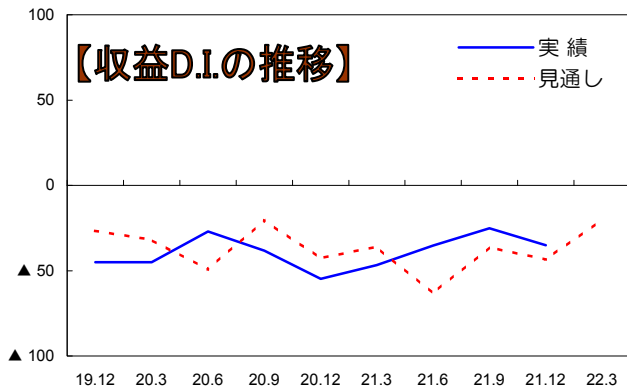
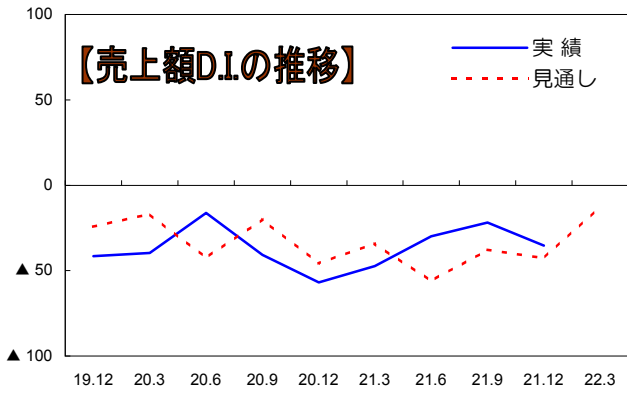
【来 期】

来期の業況判断は▲36の「悪い超」と、今期実績比8ポイント悪化とやや慎重な見通しとなっている。もっとも、「売上額」、「収益」については、それぞれ23ポイント、15ポイントの大幅な改善が見込まれている。



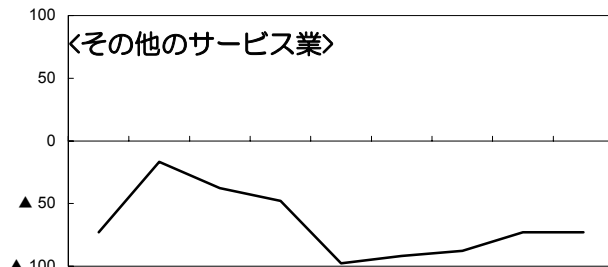
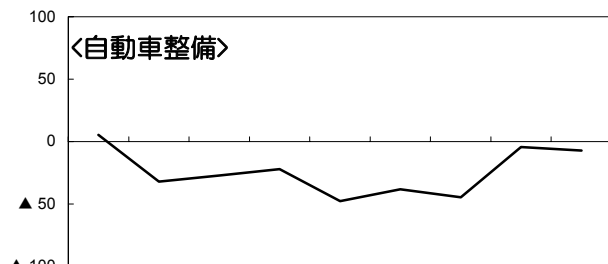
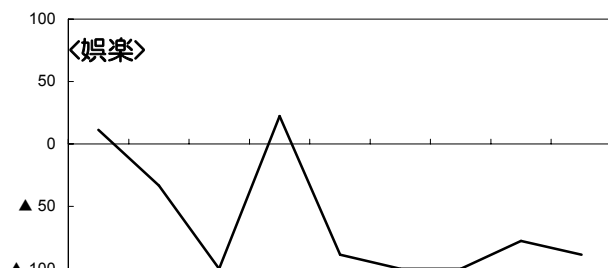
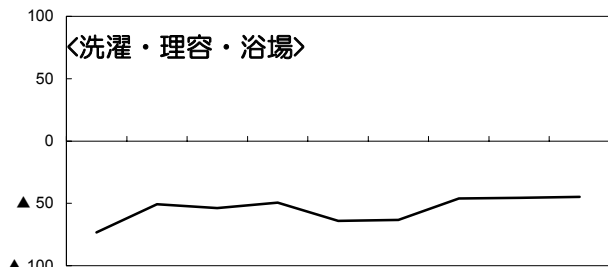
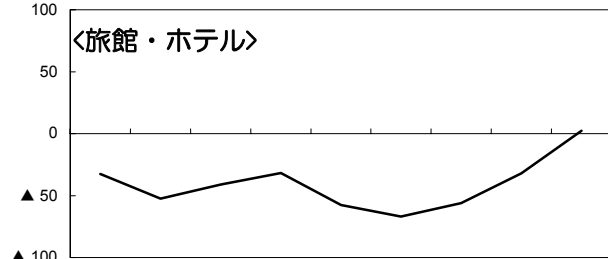
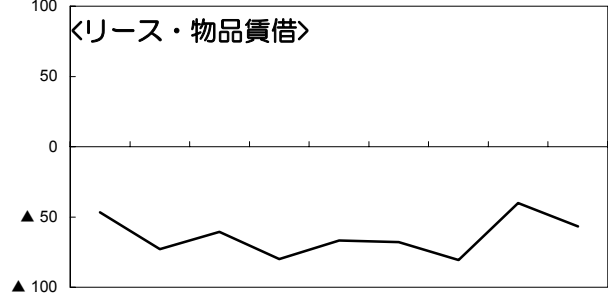
- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 料金・材料価格
⇒「上昇」-「下降」
- 人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 10～12月	21年 1～3月	4～6月	7～9月	前回調査 (見通し)	10～12月 (実績)	1～3月 (見通し)
業況	▲61	▲59	▲54	▲31	▲40	▲28	▲36
売上額	▲57	▲47	▲30	▲22	▲43	▲35	▲12
収益	▲55	▲47	▲35	▲25	▲44	▲35	▲20
料金価格	▲6	▲5	▲18	▲10	▲13	▲22	▲22
材料価格	43	20	8	13	5	0	▲5
資金繰り	▲47	▲44	▲34	▲26	▲39	▲31	▲34
残業時間	▲23	▲19	▲9	▲9	▲16	▲8	▲6
人手	2	0	▲4	▲7	2	▲8	▲5
現在設備	▲15	▲14	▲17	▲29	▲27	▲12	▲12



中分類別の業況D.I.の推移

19.12 20.3 20.6 20.9 20.12 21.3 21.6 21.9 21.12



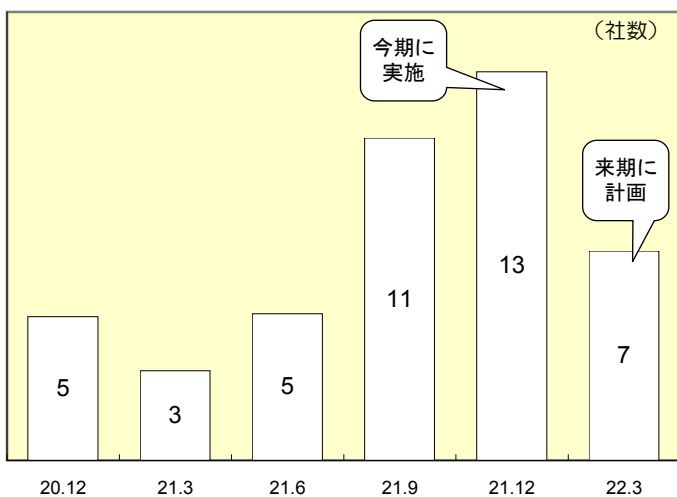
経営上の問題点

	社	比率
売上の停滞・減少	33	66%
同業者間の競争の激化	18	36%
利幅の縮小	12	24%

当面の重点施策

	社	比率
経費を節減する	30	60%
販路を広げる	21	42%
提携先を見つける	11	22%

設備投資



運輸業

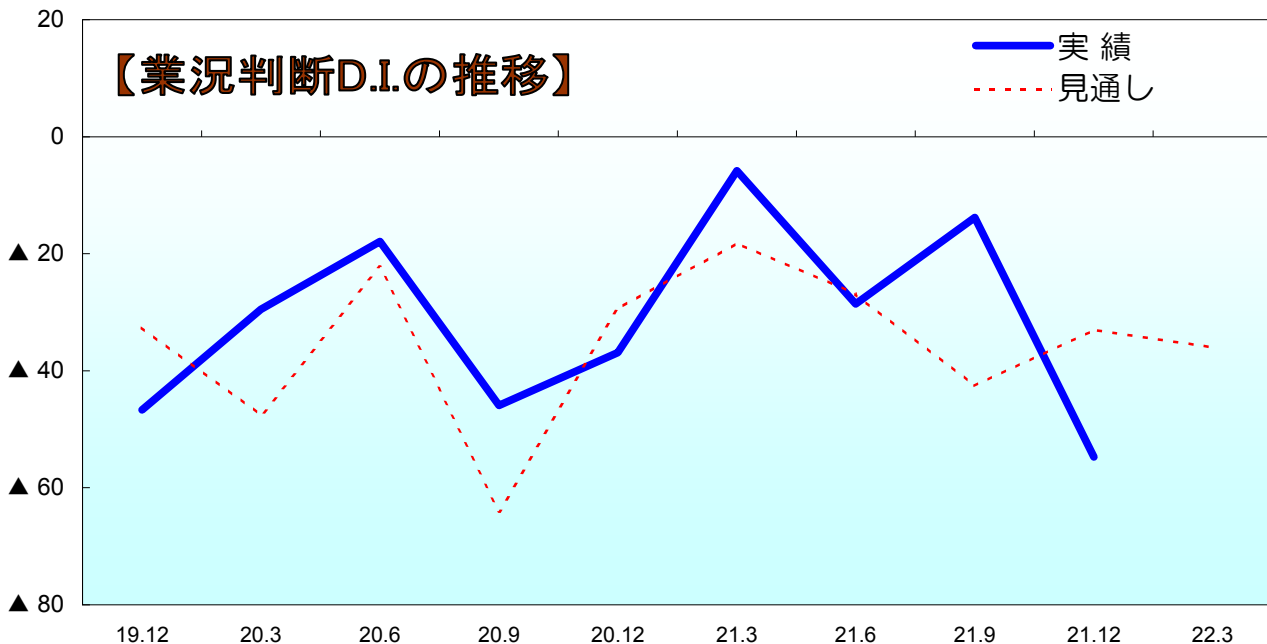
調査数 29 社
 回答数 28 社
 回答率 96.6 %

【今 期】

今期の「業況判断」は▲55の「悪い超」と、前期（▲14）比悪化を見込んでいた前回見通し（▲33）をさらに22ポイント上回る大幅悪化となった。これは、「売上額」が▲63の「減収超」と、概ね前期並みを見込んでいた前回見通し（▲5）から一転して大幅に悪化し、このため「収益」も「材料価格」の落ち着きにもかかわらず、▲48の大幅な「減益超」となったことによるものとみられる。こうした状況下、現在設備については前回見通しの▲23の「不足超」から、+11の「過剰超」へと転化した。

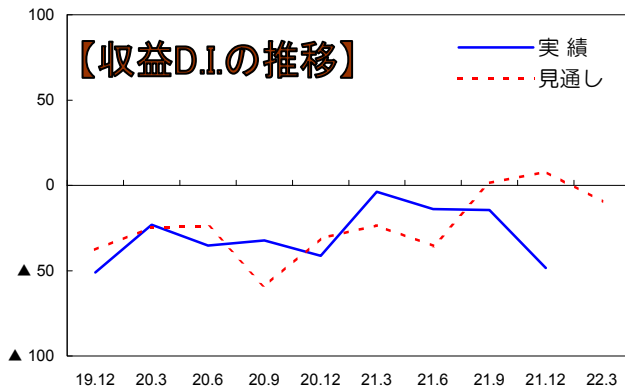
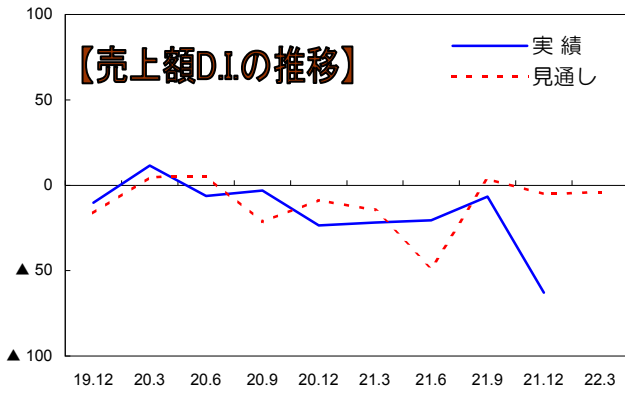
【来 期】

来期の「業況判断」見通しは▲36の「悪い超」と、今期実績比19ポイントの改善が見込まれている。これは、「材料価格」の「上昇超」が見込まれるものの、「売上額」、「収益」の「減収超」幅、「減益超」幅がいずれも小幅にとどまる見通しにあるためとみられる。こうした中、現在設備の過剰感は払拭されると見込まれるものの、設備投資については慎重な計画にとどまる見通しとなっている。



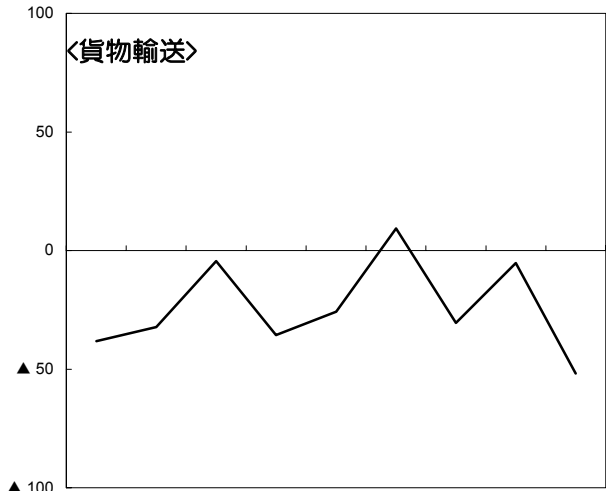
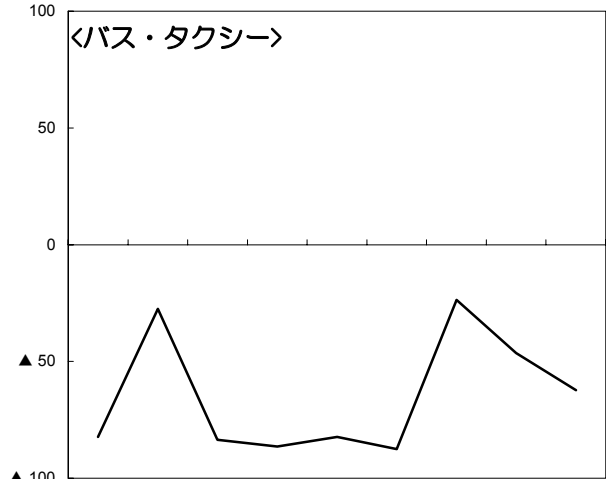
- ◆判断D.I.
- 業況
⇒「良い」-「悪い」
- 売上額、収益、残業時間
⇒「増加」-「減少」
- 料金・材料価格
⇒「上昇」-「下降」
- 人手、現在設備
⇒「過剰」-「不足」
- 資金繰り
⇒「楽」-「苦しい」
- ※季節調整済

	20年 10~12月	21年 1~3月	4~6月	7~9月	前回調査 (見通し)	10~12月 (実績)	1~3月 (見通し)
業況	▲ 37	▲ 6	▲ 29	▲ 14	▲ 33	▲ 55	▲ 36
売上額	▲ 24	▲ 22	▲ 21	▲ 7	▲ 5	▲ 63	▲ 4
収益	▲ 41	▲ 4	▲ 14	▲ 14	8	▲ 48	▲ 9
料金価格	0	▲ 12	▲ 18	3	2	▲ 8	4
材料価格	▲ 21	▲ 49	8	34	27	0	15
資金繰り	▲ 30	▲ 22	▲ 16	▲ 6	▲ 9	▲ 12	▲ 5
残業時間	▲ 3	12	▲ 20	0	13	▲ 17	▲ 5
人手	▲ 11	▲ 18	▲ 7	▲ 18	▲ 25	0	▲ 21
現在設備	▲ 4	▲ 14	4	▲ 15	▲ 23	11	0



中分類別の業況D.I.の推移

19.12 20.3 20.6 20.9 20.12 21.3 21.6 21.9 21.12



経営上の問題点

問題点	社	比率
売上の停滞・減少	16	57%
同業者間の競争の激化	11	39%
利幅の縮小	10	36%

当面の重点施策

重点施策	社	比率
販路を広げる	18	64%
経費を節減する	17	61%
技術力を高める	5	18%

設備投資

